

借地輪作地域における個別的土地利用の現状と問題点

藤森英樹 (九州農業試験場)

Hideki FUJIMORI: Problems of Rotation Culture by Individual Land Use and Regional Land Use

1. はじめに

近年、地域的な土地利用調整の必要性が説かれ優良事例としてブロックローテーション転作等が紹介されている。しかし、転作政策による誘導を別として地域的な土地利用調整 (以下、地域利用) が成立するためには、第一に個別農家に地域利用に移行する必要性が存在すること、第二に地域利用を可能とする地域条件が整っていることが前提となる。本報告では、個別的な土地利用を行っている事例 (熊本県七城町A集落) を取り上げ、そこでの主要作目であるタバコ作について土地利用上の問題点を指摘し、地域利用に移行するための条件を検討する。

2. 個別的土地利用の問題点

A集落は水田率が99%であるが、この内1967年に畑・桑園を揚水ポンプによって水田化した開田が約4割を占めている。また、従来からの水田 (旧田) は'84年に圃場整備が実施されている。'85年現在、1戸当たり経営耕地面積が115aであるが土地面積当たり所得の高いタバコ作に基本的に依拠しながら専業農家率は38%と高い。タバコは'69年には集落全農家の7割に及ぶ19戸に作付されていたが、以降小規模層から急激に減少し'87年現在8戸である。タバコは「タバコ・水稲」という作付体系をとっているが、2~3年の輪作が必要である。タバコ農家の減少はこの輪作に要する経営面積の確保がタバコ作面積の拡大に対応できなかったことが一要因である。さらに、水稲転作が開田に固定化することによる輪作対象圃場の絶対的縮小はこの要因を増幅させている。これは、開田は水稲作にとっては水利費が高い、ポンプ当番出役を要する、単収がやや低い、区画形状が劣るなどの点で劣等地として位置づけられているためである。またタバコ作にとっても品質が劣り立枯れ病が出やすいために劣等地として位置づけられている。中小規模層では輪作の対象となる圃場の不足を開田で補っていたが転作強化による開田の畑への回帰現象はそうした対応を不可能にしている。

現在のタバコ作農家にとっての問題点は、①輪作体系をいかに組むか、そのための面積をいかに確保するか、②収穫時の周辺水稲作圃場からの水の浸透・流入をいかに回避するかである。②の排水問題については圃場整備 (用排水分離・暗渠) によってほぼ解決されたが、①の輪作問題が大きく、借地によって輪作対象圃場の拡大を図っている。しかし、タバコ作に適しているといわれる旧田で十分な輪作が組めないため、1~3年程度の借地期間を定めて借地する短期借地や開田での作付で補っている (表)。しかし、短期借地は借地料が高額であること (6~7俵/10a) や、優良圃場確保の不安定性の点で問題がある。また、経営耕地が相対的に小さい層では連作を余儀なくされ、収益性に大きく反映している。

3. 地域的土地利用調整の可能性

このようにA集落のタバコ作農家にとって輪作対象圃場の確保が土地利用上最大の問題となっている。この問題を地域的土地利用調整によって解決するにはローテーション方式が採用される必要がある。しかし、集落内の旧田部分の全圃場を対象としても、かろうじて2年輪作が組める程度であり、輪作対象圃場の外延的拡大が求められる。その方策として①開田部分を取り込んだ集落内全圃場を対象とする、②集落の範囲をこえて他の集落を取り込む、の2つが考えられる。①は開田と旧田の土地基盤条件を均一化することが必要とされ、そのための土地改良投資を要する。したがって②の方向が望ましい。

しかし、今後兼業化により土地貸借市場の緩和が進展する場合には、地域的な土地利用調整に依るよりはむしろ個別相対での借地対応にとどまる方がより現実的であり、その場合には第三者機関による農地貸借斡旋が課題となる。ただし、タバコ作だけではなく米麦作等に目を転じた場合には、今後担い手不足が予想される。作業の効率化等を考慮した地域的な土地利用調整が必要となり、タバコ等の土地利用もこの中に組み込んで考えるべきであろう。

第1表 タバコ作の輪作可能年数と連作回避対応

農家番号	経営耕地面積 (畑を除く)	旧田 (A)		開田		タバコ作面積 (B)	旧田でのタバコ作輪作可能年数 (A/B)	対応	
		うち借地	うち借地	短期借地面積 (60~62年)	開田タバコ作付面積 (60~62年平均)				
①	272 ^a	163 ^a	46 ^a	109 ^a	47 ^a	92 ^a	1.8 ^年	—	22 ^a
②	259	164	46	95	8	90	1.8	60年旧29a, 61年旧20a	9
③	195	155	78	40	—	87	1.8	62年開26a	—
④	184	107	—	77	16	62	1.7	—	—
⑤	166	84	—	82	—	98	0.8	60年旧17a, 62年旧30a	23
⑥	143	81	15	62	14	66	1.2	—	15
⑦	115	83	—	32	—	48	1.7	—	1
⑬	90	70	39	20	—	80	0.9	60~62年旧133a	—